

充実した青春に輝く 今年の成人者におくる

巻町長 河治 忠

成人の皆さんおめでとう。
心身共に立派な四七五名の諸君が、今日から成人として、社会に伍して行かれることは、当巻町としても、この上ない喜びです。
しかし大人になったからといって、諸君の体や心が突然異変を

生じ全然異質なものができ上がったわけではありません。諸君の姿は飽くまで明日の延長であり、今日諸君の心身にたぎる青春は、そのまま明日へ伸び、更に明後日へと充実して行くわけです。
国家が特に諸君のために、この

ような祝日を設けたのは、諸君の心構えに社会人としての責任を感じてもらい、人生に対する態度に、正しい姿勢をもって臨んでいただくためであると思います。
戦後の社会の仕組みは、実に複雑多岐であって、その中に誤りな

く生きぬく事は、相当の年令の者ですら途惑う事の多いことは、否めない事実です。特に最近の社会構造の変革はこの町にもいろいろな形で波及してきており、諸君の同級生の多くが、現にこの町から離れて、いろいろな職場で働いております。

社会の仕組みが如何に複雑であっても、社会の変遷が如何に急激であっても、我々は、やはり活眼をもって、その複雑の中に真実を見出し急激な変化の中に一定の法則を発見してこそ、誤りない社会人として生きてゆけるのだと思います。

これからの幾年かの諸君の人生は精神的にも肉体的にも最も充実し、最も美しい光を放つことでしょう。

諸君のもつ二十才の正義感、正しい判断を伴ってこそ世に認められ、諸君の内に秘める二十才の情熱は、同僚や、社会のためにも燃ゆるものであってこそ真の情熱だと思えます。

それだけに、諸君は青春の純潔の価値を高く評価し、自分自身を大切にして理想や夢の実現に邁進して下さい。

諸君の健康を祈り前途の発展を心からお祈りいたします。

写 真

希 望

石山 主事 撮影

- ことし成人式を迎える人たちの生れた一九四二年は、どんな年であったか、思い出のよすがとして、おもなできごとをふりかえってみる。
- 前の年の十二月八日、日支事変から太平洋戦争に突入した日本は強固なる戦時態勢がしかれ、老いも若きも戦争完遂へのかまえをみせた。
- いわゆる「ほしがりません勝つまでは」の合言葉はこのころからつかわれたものである。
- 今年成人となられた皆さんはもろんのこと、皆さんの両親や恩師、先輩にとっては終生忘れがたい年であったにちがいない。
- 1・2 日本軍マニラを占領
- 1・8 毎扇入日を大詔奉戴日と定める
- 2・15 シンガポールを占領
衣料品切符制となる
- 3・9 ジャワ無条件降伏
- 4・18 米軍機ホーネット号より、東京、名古屋、神戸に米襲
- 5・9 コレヒドールを攻略
- 6・5 ミッドウェー沖海戦
- 7・ 選挙粛正運動中央連盟解散 この運動は大政翼賛運動に吸収される
- 8・7 第一次ソロモン海戦
- 9・9 日本の水上機米西海岸を空襲
- 10・11 国鉄二十四時間制を実施
- 11・15 関門トンネル開通

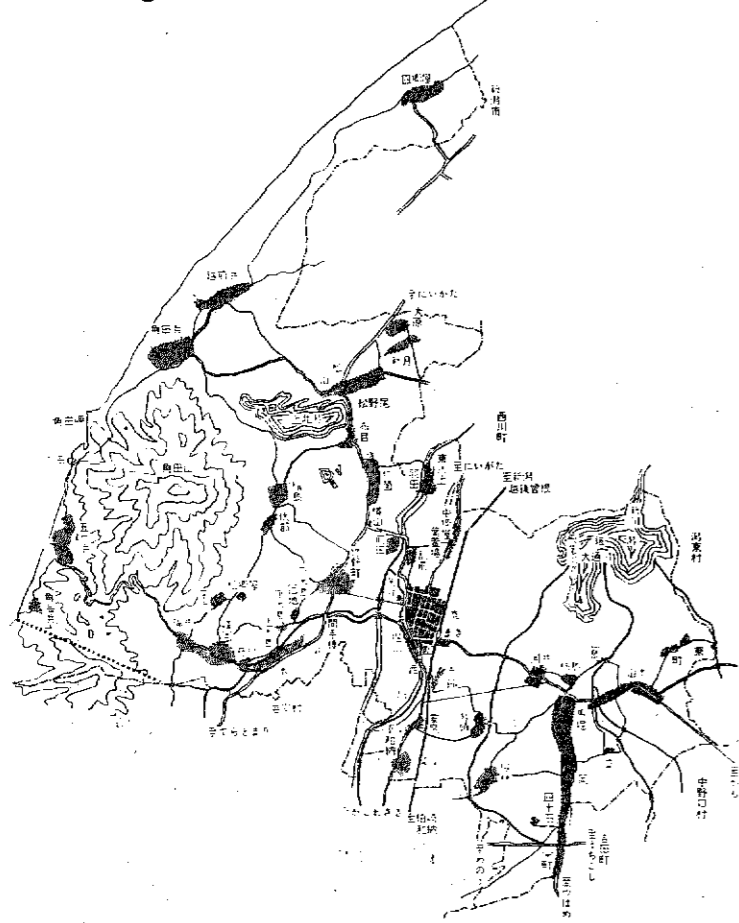
16760 33

その沿革を藩政時代の昔にさかのぼってみますと、全地域の部落の多くは三根山藩、長岡藩及び幕府の直轄領地となっていました。明治維新となり、藩政は解消しましたが、明治二十二年町村制が初めて施行されるまでは、行政区劃はめまぐるしく変わりました。

しかし明治三十四年町村統廃合が行なわれてからは、以来四十余

× × ×

巻町全図 S=1:50,000



このようにみえてくると、私どもの巻町も、数百年の長い歴史の中で、それぞれの時代の要求にもとづいて変遷してきました。

× × ×

***** 巻町の沿革 *****

私たちの巻町は、昭和三十年一月一日、旧巻町、漆山、峰岡、松野尾、角田、浦浜の一町五ヶ村が合併して発足しました。

やがて同年七月西川町から、中郷屋、葉巻場、割前、羽田、東沢上の五ヶ部落が、新巻町に加わってきました。それから三十五年四月に至り、岩室村から安尻、下和納の二部落が分村して編入し、現在面積七四・三〇平方キロメートル、人口二万八千六百三人、五千六百三世帯が、巻町の全貌であります。

年、新市町村合併の今日まで、その行政区劃は変わりませんでした。したがって、昭和三十年の新巻町誕生は、明治三十四年以來の歴史的な変革であったことが理解出来ると思います。

更にその沿革を地域別にとらえてみますと、その中心部である旧巻町は、今から凡そ五七〇年程前上杉家の家臣、西山庄左エ門が開発したといわれ、慶長五年(三六三年前)上杉氏領地があり、その検地帖は現存し、当時の巻村の田地田畑、耕作者を知る上に貴重な資料として、巻町文化財に指定されております。

旧巻町はもと横村と書き、元和年間(一六一五〜一六二三年頃)真木村に改められ、更に巻村(年代不明)となったといふことです。

明治二十二年、堀山新田と合併して巻村となり、同二十四年巻町となりました。(赤さびの編入は昭和二十四年)

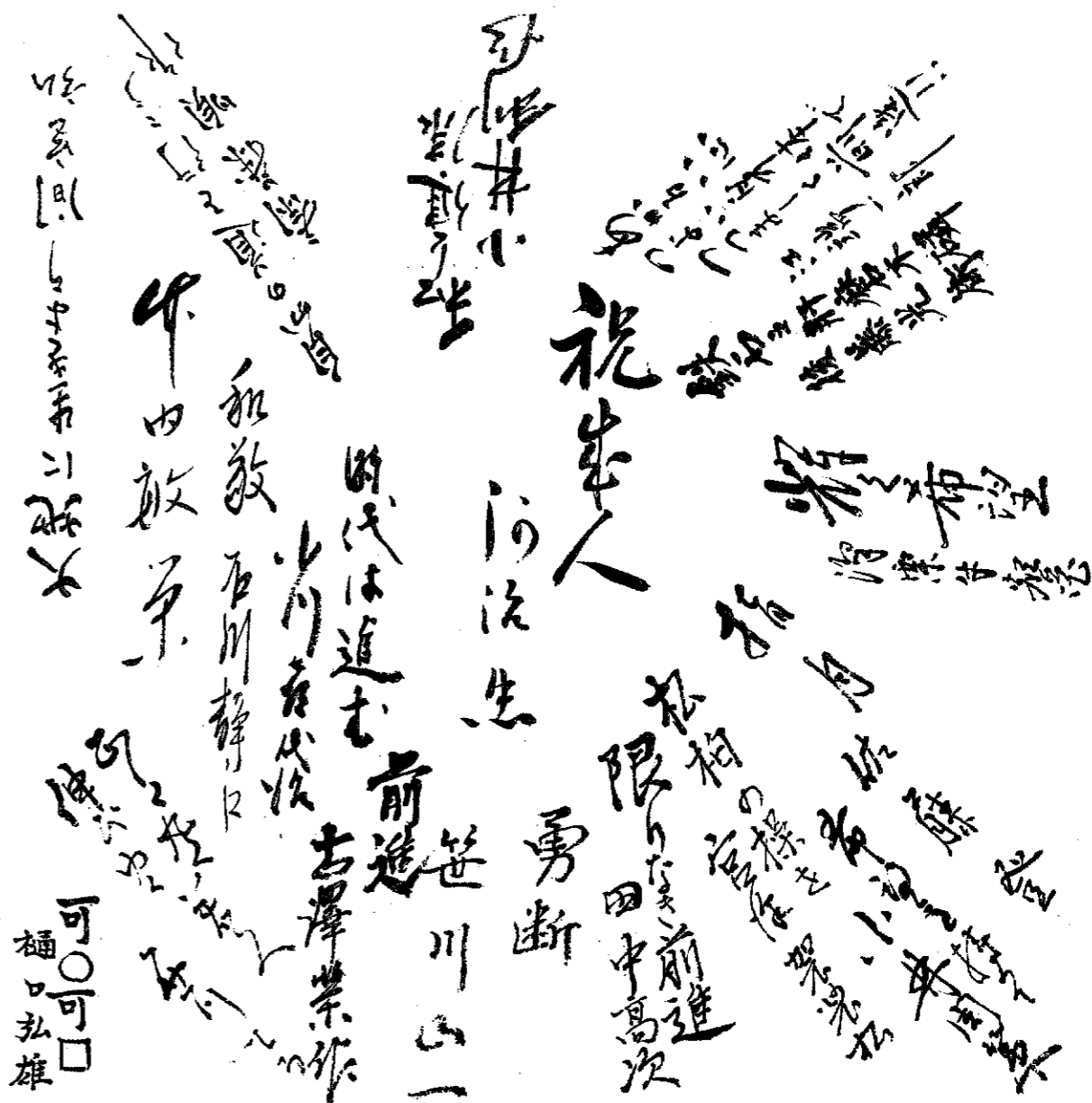
旧漆山村の各部落は三根山藩と長岡藩の領地でしたが、明治二十二年、漆山村、馬堀村、湯南村、佐渡山村に分けられ、三十四年にこの四ヶ村が合併して漆山村となりました。

旧松野尾村は松野尾、松山、新保、大原の各部落とも幕府の直轄領でしたが、明治二十二年各々独立して一村となり、同三十四年松野尾村となりました。

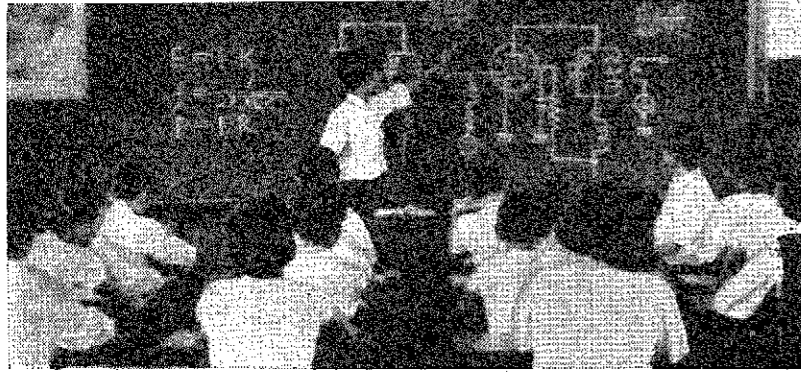
旧角田村は、角田浜、越前浜は幕府、四ッ郷屋のみ長岡領でしたが、二十二年独立して三村となり、三十四年角田村となりました。

旧浦浜村は角海が長岡藩、五ヶ浜が三根山藩の所領でしたが、明治二十二年、各々独立し、三十四年に浦浜村となりました。

祝 成人.....成人者の皆さんに贈る



- 巻町 河治 忠
 - 巻町農業協同組合連絡協議会長 笹川 山一
 - 巻町教育委員長 古沢 栄作
 - 巻小学校長 小川 喜代治
 - 社教講師 石川 静江
 - 巻町婦人団体連絡協議会長 西川 てる
 - 巻町公民館長 樋口 弘雄
 - 巻町商工会長 竹内 敏栄
 - 巻町連合青年団長 岡宮 弘
 - 巻町公民館兼分館長 斎藤 順作
 - 巻地区農業改良普及所長 小林 利治
 - 巻町教育長 江端 一郎
 - 峰岡中学校長 後藤 光衛
 - 松野尾小学校長 沢栗 利兵衛
 - 県立巻高等学校校長 佐藤 登
 - 巻町消防署長 小林 周策
 - 県立巻農業高等学校校長 宮沢 嬰娑松
 - 入徳館小学校長 田中 高次
- (順不同)



成人式を迎えられたみなさんおめでとうございます。
みなさんの卒業された母校である巻町の小中学校は、小学校は九十周年、中学校は十五周年を迎え、昨秋には巻、入徳館で創立九十周年の式典が行なわれ、中学校関係では十五周年のお祝の集りが持たれました。小学校の九十年は、いり及び、中学校の十五周年の歩

近代化への施設

生活の中に考える

みの中には、みなさんやみなさんの先輩の方々の築かれた輝かしい伝統が脈々と流れております。そして、その伝統は次々に受けつがれて、みなさんの母校は堅実に歩みと発展の歩みを続けております。
上の写真は、みなさんの後輩の中学生がクラブ活動で無線放送についての勉強をしている姿です。このアマチュア無線クラブはラジオに興味のあるものが集って結成、熱心に学習し毎年数名の国家試験合格者を出し、また無線機の製作も行なって学校クラブ局を開くための無線局免許申請を準備中と聞いております。写真をごらんください。黒板の前の指導者は生徒です。なかなか堂々たる教授ぶりです。これは中学生の学習活動のひとつですが、こうして近代的生活に必要な生活の技術を習得し、将来への夢を胸にみなさんの後に続くべく勉学に励んでいられる生徒諸君の姿を推察していただければ幸いです。
町としてもこうした期待にこたえるため各学校の施設設備の充実に努力しております。
昭和三十四年度以降、各校の音楽、理科等の特別教室の増築



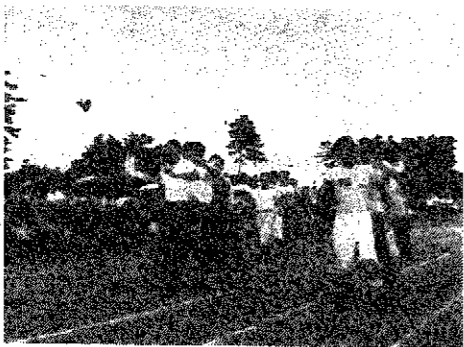
町の茶の間

—公民館—

越前小、漆山中のグラウンド整備、そして昨年は町内各中学校の技術家庭科教室の建築に着手いたしました。また、来年の国民体育大会の行事とも関連して鼓笛隊、ブラスパンドの編成も進められております。こうして歩みと教育施設も整備され体育に、芸能に、そしてまた近代生活の基礎技術の学習に、学校教育は向上の道をたどっております。



農村における青年層の激減から分館単位の青年学級の開設が困難となってきた現状から、中央青年学級農業高校開放学級、ラジオ学級等本館利用の学級が増えつつある。町部での商業青年学級、理容青年学級等はむしろ活発化してきている。
県外青年団及青年学級との交歓会は北海道音更町の青年四十名を迎えて開かれた。
町部における町民講座は毎月二回、その時期に適した問題をとらえて政治講座、討論会、講演会等を開いてきた。今後毎週一回、期間も一ヶ月か二ヶ月位の継続した専門教室(例えば考古教室、美術教室、歴史教室等)を皆さんの意見をききながら開設する予定。
図書室もいま下駄ばきのまま利用できるよう工事が進められその完成

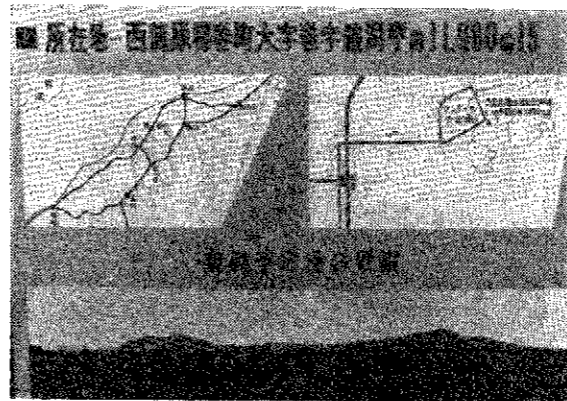


も近い。
体育施設は、学校に依存している現況よりその制約は免れない野外活動は海岸、山と環境に恵まれている。公民館は各種用具を準備、利用に供している。
巻町体育後援会は巻町内体育の向上に大きな役割りを果たしている。
昭和三十五年、巻町文化財保護条例が設けられました。この間巻町指定文化財の設定や町内の各種調査、紹介を双書として出版している。

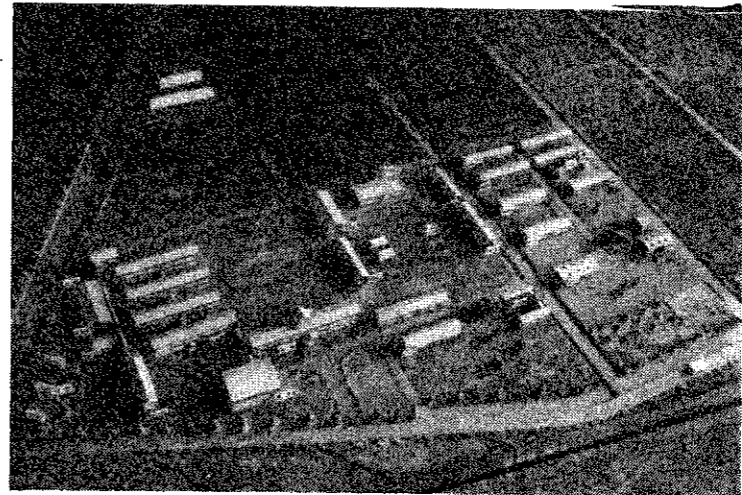
夢ひらく 建設譜

県立農業教育センター

農業構造改善の先駆者たらんとする人は一度はこの門をくぐって下さい。
西蒲原郡の豊庫といわれる鵜湯がいま干拓されていますが、その一角に新しく近代建築と設備による農業教育センターが設立されることになりました。
この農業教育センターとはどんなところでしょうか。
わが国の農業は、いま大きく変わるうとしています。ここ数年の間に、あととりとして農業に従事しているのは約半数になってしまいました。
このような農業人口の減少と、農業をとりまく情勢は、クワ、カマ農業からトラクター農業へ、小規模経営から大規模経営へ転換されつつあり、農業の構造改善がきびしく迫っています。
このような情勢の中で、農業に生き抜き、新しい



農業の担い手としてのあととり教育が重要になって来ました。農業教育センターは、これら後継者を近代化の農場運営の実践を通じて体得し、各市町村の中堅農業者を養成する教育機関であります。
教育方針
○「おれは農業が好きだ。農業をやるんだ」という農業に対する積極的な態度をつくること。
○企業の農業経営者として必要な知識、技術を身につけること。
○中核者として「人を組織し人を動かす指導性」を養うこと。
○作業に対する新しい「しつけ」を重視し、労働に耐える体力を鍛えること。



本 科 中学卒業生(十八才以下)の農業青年(高校卒業生および十才以上の農業青年) 農業高校の生徒たち
講習部、農業者であれば誰でも参加できる。

ホツケ

新潟国体19年6月1日

昭和三十九年六月第十九回国民体育大会新潟大会は新潟市を中心



に県内各地に於て開催されます。
ホツケ1競技の開催される巻町ではすでに昨年来、その準備がすすめられ近々中に具体計画が明らかになると思えます。
全国各県の選手、役員等四百人が予想されます。各チームが最良のコンディションで競技に臨んでもらうことが、会場を引き受けた巻町でのエチケットであろうかと思えます。
花いっぱい運動、清掃美化運動、親切運動などが考えられます。
今年度巻町で開催が予定されているホツケ1競技は次の通りです。
四月 全日本東西対抗ホツケ1大会(六チーム)
十一月 全日本学生選手権大会(二十五チーム)

五割	羽	葉	中	東	安	下
ケ		壹	郷	汰		和
石浜	河前	石鳥	伴早	田真	沢真	場桃
坂野	田脚	川川	島島	栗栗	川井	木木
恵満	カ久	政武	チ	雅敏	恭	恭
子子	子子	子子	子子	子子	子子	子子

馬堀上組	東
田中	小長
得雄	林谷
	川口
	藤口
	藤口
	藤口
	藤口
	藤口

成人のよろこび一つ誇りかにおそれをひめて選挙を知らむ

春浅みかたき蓄のしかすがにたくましくしていのた新し

冬晴を速山脈のかがやけば若人よいざいでて仰がむ

祝成人

湯	柿	角
田頭	桑桑	島望
辺口	原原	月田
ミヨ子	英岩	輝
	勝夫	肇彦

馬堀下組	馬堀西下組
路田	長谷川
谷辺	長谷川
一清	百合子
代志	百合子

漆山二ノ丁	漆山一ノ丁	漆山三ノ丁
笠原	永海	伊藤
十四三	井藤	藤田
	ツ光	勝文
	ヤ子	衛夫

高	十二	馬堀中組
八木	伊藤	宮城
原	藤原	幸枝
井	藤原	幸枝
井	藤原	幸枝
井	藤原	幸枝
井	藤原	幸枝
井	藤原	幸枝

岩源	松野
崎	山
信	林
久	高
美	山
子	尾

漆山八ノ丁	漆山七ノ丁
渡星	佐灰
辺野	野辺
田	田
本	本
古	古
橋	橋
小	小
石	石

河	松
井	山
梨	林
田	高
本	山
本	山
本	山
本	山
本	山

一九六三年 成人となられる人々

巻町成人者名簿

巻三	巻二	巻一
大五	巻二	巻一
区	区	区
地	地	地
浦野	浦野	浦野
正藤	正藤	正藤
良子	良子	良子

巻五	巻四	巻三
本桶	巻五	巻四
長谷	巻五	巻四
川	巻五	巻四
中	巻五	巻四
田	巻五	巻四
貝	巻五	巻四
藤	巻五	巻四
林	巻五	巻四
幸	巻五	巻四
美	巻五	巻四
子	巻五	巻四

巻八	巻七	巻六
佐幸	巻八	巻七
小保	巻八	巻七
川合	巻八	巻七
市橋	巻八	巻七
区	巻八	巻七
川	巻八	巻七
上	巻八	巻七
山	巻八	巻七
宮	巻八	巻七
中	巻八	巻七
久	巻八	巻七
昌	巻八	巻七
和	巻八	巻七
静	巻八	巻七
江	巻八	巻七
ツ	巻八	巻七
枝	巻八	巻七
夫	巻八	巻七
忍	巻八	巻七
子	巻八	巻七

巻九	巻十	巻十一
小池	巻九	巻十
浅田	巻九	巻十
区	巻九	巻十
小	巻九	巻十
八	巻九	巻十
木	巻九	巻十
八	巻九	巻十
谷	巻九	巻十
川	巻九	巻十
野	巻九	巻十
内	巻九	巻十
雨	巻九	巻十
佐	巻九	巻十
小	巻九	巻十
小	巻九	巻十
久	巻九	巻十
菊	巻九	巻十
池	巻九	巻十
黒	巻九	巻十
滝	巻九	巻十
区	巻九	巻十
斎	巻九	巻十
内	巻九	巻十
渡	巻九	巻十
吉	巻九	巻十
村	巻九	巻十
三	巻九	巻十
真	巻九	巻十
海	巻九	巻十
石	巻九	巻十
石	巻九	巻十
相	巻九	巻十
区	巻九	巻十
堀	巻九	巻十
本	巻九	巻十
藤	巻九	巻十
長	巻九	巻十
野	巻九	巻十
永	巻九	巻十
徳	巻九	巻十
土	巻九	巻十
佐	巻九	巻十

赤	巻十二	巻十三
長高	巻十二	巻十三
島内	巻十二	巻十三
久保	巻十二	巻十三
今河	巻十二	巻十三
大石	巻十二	巻十三
稲	巻十二	巻十三
木	巻十二	巻十三
小	巻十二	巻十三
高	巻十二	巻十三
中	巻十二	巻十三
伴	巻十二	巻十三
長	巻十二	巻十三
野	巻十二	巻十三
山	巻十二	巻十三
宮	巻十二	巻十三
星	巻十二	巻十三
区	巻十二	巻十三
阿	巻十二	巻十三
金	巻十二	巻十三
内	巻十二	巻十三
山	巻十二	巻十三
羽	巻十二	巻十三
大	巻十二	巻十三
今	巻十二	巻十三
小	巻十二	巻十三
高	巻十二	巻十三
小	巻十二	巻十三
高	巻十二	巻十三
棚	巻十二	巻十三
小	巻十二	巻十三
区	巻十二	巻十三
斎	巻十二	巻十三
笛	巻十二	巻十三
山	巻十二	巻十三
森	巻十二	巻十三
藤	巻十二	巻十三
長	巻十二	巻十三
永	巻十二	巻十三
内	巻十二	巻十三
田	巻十二	巻十三
斎	巻十二	巻十三
幸	巻十二	巻十三

